

奥深き 俳句の 世界

テレビ番組で取り上げられるなどして最近、人気が高まっている俳句。身の回りの出来事や自然の様子、心の動きなどを5・7・5の17音で表現する日本の伝統文化です。江戸時代に確立した俳句は、松尾芭蕉や正岡子規などが名作を残しながら、現在まで絶えることなく表現の方法として受け継がれてきました。

自分以外の人が作った句を鑑賞することも俳句の楽しみ方の一つ。限られた字数の中で表現された作者の思いやその情景に思いをはせることは、想像力を養い、心を豊かにしてくれることでしょう。

自分で作るもよし、作品を味わうもよし、そんな俳句の世界へ一歩踏み出してみませんか。



自由に表現してみよう

5文字 + 7文字 + 5文字
を組み合わせる

(読んだときに17音になるように)

季語を入れる

例えば春の季語は… (一例)

桜、梅、椿、東風、春一番、長閑、
春眠、蝶、さより

見たこと、感じたこと、
伝えたいことを読む



句を味わってみよう



INTERVIEW 山田深雪さん (三納)

俳句の題材を探していると今まで気付かなかった日常や自然に目が向くようになり、心が豊かになったと感じています。紙とペンがあればすぐに始められます。書きためておいたものを後で見直すと日記のように、その時の風景や気持ちを思い出すこともできます。難しく考えず、ぜひやってみてください。会員も募集中です。

市俳句協会

☆活動日は問い合わせください

☎ 代表 山田 ☎ 248 - 0858

俳句を愛する人たちが集まり創作活動を行っている市俳句協会の新年句会が2月1日(土)、にぎわいの里ののいち カミーノで行われました。日常の瞬間が、優れた感性で切り取られた秀句をぜひ味わってください。

◆秀句抄

市俳句協会新年句会より

一位
二位
三位
入選

小流れの音に始まる里の春
帰船待つ漁師の妻の浜焚火
祈りにも似たる歓声出初式
青竹に神酒ふり注ぎどんど焼
白髪を梳いて男の初鏡
あまつかぜえ歌留多読む子のたどたどし

古源 和子
松本 黎子
進村 五月
山田 深雪
山田 深雪

歳旦のまつさらな空仰ぎをり
しくじりの書き初め残し子等帰る

西村 邦子
藤谷 幸恵
大家美智子

奥村誠一路先生 選

帰船待つ漁師の妻の浜焚火

松本 黎子

西田さい雪先生 選

小流れの音に始まる里の春

古源 和子

林和子先生 選

還暦にして弥栄の御慶かな

山田 季未